

2011年5月16日

吉田治男 様

北実会会長 山下兼男

あなたの顔写真と氏名・住所が記載された「白井市民の間に、正確でない情報が流布されています。」と題した文書が広範に配布されております。文書の中に、「横山くがこ後援会長・吉田治男」とあるところをみると、あなたの了解のもと、北実会の元会長の肩書を利用して、市長選挙に役立てる意図がうかがえます。

あなたはこの文書で、あたかも北実会が、まちがった情報を流して市民を混乱させているかのように書いていますが、「北実会・元会長」の名をつかって、このような文書で、「正確でない情報を流布して」いるのは、まさにあなたの方であり、北実会への非難はそっくりあなたにお返しします。

あなたは、まず、運賃値下げが「たった5%」というのは不正確で、「通学定期の25%値下げ」が正確だと、値下げ幅がさも大きいものであるかのように持ち上げ、つづいて、白井市が補助金を出さないと「合意が破棄され、通学定期の25%値下げが元の値段に戻る」と勝手な筋書きをのべたてて、「北実会・元会長」がいうのだから、本当かも知れないと、市民をまどわせようとしています。

あなたが流しているこの情報には、二重、三重の間違いがあります。

まず第一に、値下げはまぎれもなく4.6%です。「通学定期25%値下げ」をしても、北総鉄道は、なお他の私鉄の3倍の値段で、異常な高さは何ら変わりません。「通学定期の25%値下げ」が北総鉄道の営業収入に与える影響がどれほどかということ、年約2.6億円で、同社の年間収入の2%にもなりません。過去6年間、前年より平均3%ずつ営業収入をのばしてきた北総鉄道にとっては、補助金をもらわなければ負担できないなどという額ではありません。

第二に、「白井市が補助金を出さないと合意が破棄され、運賃が元に戻る」というのは、根拠のない幼稚な論理の作り話であって、行政行為はそんなに単純なものではありません。「合意書」には、合意の実施に県が責任を負うとは書かれていても、合意の「破棄」などの取り決めは、どこにもありません。

あなたが以前、北実会の役員であったとき、あなたの口から、このような主張がなされたことは一度もありませんでした。すでに北実会の運動をやめてしまった今になって、突然、「北総線の運賃値下げを実現する会」を名乗って、北実会を中傷するなどという不誠実な態度は全く理解に苦しみます。

あなたの主張は、結局、京成電鉄に正当な線路使用料を請求して、それを原資に運賃を下げるという当然の要求を棚上げし、数々の不合理に目をつぶり、抜本的値下げを目指す何の方針もなく、ただ県と京成電鉄の主導できたった枠組みに従順に従って、4.6%値下げのために税金を投入しつづけようとする前市長の態度を弁護するために、勝手な筋書きをのべているにすぎません。

これは市民の根本からの願いを裏切るものです。このような文書に「北総線の運賃値下げを実現する会」の名称を、今は何の関係もないあなたが勝手につかったことを謝罪し、北実会への中傷を撤回するように求めるものです。